「自然災害伝承碑」の代表事例

国土地理院

資料２

地震・津波

赤石豊浦神社石碑
（徳島県小松島市）

安政元年（1854）11月5日（旧暦）、安政南海地震による津波が襲い、数多くの死者が出た。しかし、小松島豊浦と近郊の村々の人々は小高い豊浦神社に走り集まって難を逃れた。

椿八幡神社常夜燈
（徳島県阿南市）

嘉永7年11月4日(1854年12月23日)、安政東海地震の津波が土堤を越え、川筋の奥手まで上がったので、人々は津波の再来を恐れた。翌5日(24日)午後6時ごろ、安政南海地震による津波が来たので山の上に逃げ夜を明かした。家屋や田の被害は生じたが、犠牲者は出なかった。

敬渝碑
（徳島県松茂町）

嘉永7年11月5日（1854年12月24日）に発生した「安政南海地震」の被害の様子を記した石碑。激しい揺れによる家屋の倒壊と火災、液状化現象と津波による田畑の冠水、地震の被害が記されている。

牟岐町における南海震災史碑
（徳島県牟岐町）

昭和南海地震(1946)における津波襲来や被害の状況、過去の巨大地震津波の発生日などの記録が刻まれている。また、津波が起きるのは震源が40kmより浅い場合と、M6.5以上の地震を目安とすること、自分の身は自分で守ることを説いている。

洪水

大津地区水害記録碑
（高知県高知市）

平成10年(1998)9月23～25日、前線による記録的な豪雨により9名の死者と約2万棟の浸水被害があり、特に大津地区は未曽有の被害を被った。再び災害がないことを願って、この集中豪雨最高水位と1972年9月15日の国分川決壊最高水位を刻んだ碑が建立された。

災害之記録碑
（高知県土佐市）

昭和50年（1975年）8月17日に高知県を襲った台風5号は、河川を一瞬にして氾濫させ住家・田畑・公共施設を濁流の中へと押しやり、食糧、交通、電気通信等が寸断され孤立状態となった。台座の横線は当時の水位を示している。

土砂災害

須沢追悼碑
（愛媛県大洲市）

明治19年(1886)9月24日台風襲来により櫛生村須沢では、山腹が約270mにわたって崩壊、瞬時の間に山すその人家が埋没、流出。土砂で家屋の倒壊、田畑の流出が相次ぎ、多数の死傷者を出した。この災害で39人が犠牲となった。

災害復旧記念碑
（徳島県美馬市）

昭和51年(1976)9月8日から13日まで停滞した台風17号により、富士の池谷山腹の地滑りと崩壊による土石流が川上地区を襲った。住家・橋梁・道路・田畑などに大きな被害を生じたが、幸い犠牲者はなかった。碑には住民が協力して防災に励み先祖伝来の地を護るという決意が込められている。